

常議員候補者所信表明

四国支部選挙管理委員会

2005/02/10

下記のとおり、建築雑誌2005年2月号p139掲載の常議員候補者9名（香川3名、徳島2名、高知2名、愛媛2名）の所信表明文を掲載いたします。

（候補者名簿順）

常議員候補者9名

香川3名

佐藤 昌平	我々が後世に残すべき豊かな環境は、小さな問題点からでも取り組むことが必要である。今やる事の意義は、将来のひとを取り巻く文化・環境の一端を担うことを誰もが認識してほしい。
高橋 繁二	南海地震の発生予測が公表され、ここ四国でも構造系技術者の果たすべき社会的役割が再認識されつつあります。四国の構造系技術者の技術レベルも、ここ数年来、確実に向上しています。学会の活動を通して、この流れも持続、発展させて行きたいと考えています。
三木 雅愛	1)多くの会員が集まりやすい支部事務局を目指し、場所の移転も視野に入れ検討の時期に来ていると思われまます。そこで多くの会員相互の親睦を計り、会員増強につなげば幸いです。 2)建築関係諸団体との横の連絡も取り合い、各事業の活性化を計りたいと思います。

徳島2名

野々瀬 徹	地震、台風などの自然災害による建築の破壊が増えてきています。地域とともにある建築学会として、地域に精通した視点での安全な建築環境づくりに微力を注ぎたいと思います。よろしくをお願いします。
森兼 三郎	推薦を受けまして、来期も引き続き四国支部常議員に立候補させていただくこととなりました。会員一人一人の声を学会に反映できるよう努めるとともに、文化や自然を大切にしたい、住み良いまちづくりに努力したいと思います。よろしくをお願いします。

高知2名

溝渕 博彦	今回、建築学会四国支部の常議員に立候補させていただきます。常議員を昭和60年から6期12年、支部監事を1期2年やらせていただきました。職場が変わり、県の文化財課で建造物に関する関係の仕事を進めています。若いときはまた違う視点で提案や活動に参加したいと考えております。四国支部の4つの個性を守りつつ、新しい時代に対応した感性で頑張ります。よろしくをお願いします。
吉田 晋	見えない時代のなか「地球規模で考え、自らの立つ場所で行動する」姿勢を変わりなく続けていきたいと思っています。南海・東南海地震が予測されるなか、自分があるいは学会四国支部が社会に何を貢献できるかが問われています。

愛媛2名

羽田 快昇	建築を取り巻く環境が大きく変化中、建築学会の果たすべき役割は重要であり、変革も必要と考えられます。 その変革に対し、しっかりとした対策を講じるためには、組織の活性化が必要です。そのためには、「会員相互の意識向上と研究活動の発展にあり。」という観点に立って、少しでもお役に立てるよう頑張る所存です。 また、地域社会への情報発信によるPRも大事だと考えます。
曲田 清維	四国支部の教育研究事業を活性化し、会員相互の親睦と支部の発展に努めていきたいと思っています。また、学会が多くの市民に愛されるよう、教育普及活動に努めます。とりわけ、未来の生活空間づくりの担い手である子どもたちに対しては、学校や地域、関連NPOなどとも連携しながら啓蒙活動を進めていきたいと思っています。